

③現代

1946年（昭和21年）新憲法の政教分離により、寺社所有地を公園から除却したため公園面積が減少した。寛永寺の周辺には子院は僅かに残るのみだが、増上寺周辺には数多く残っており、往時の雰囲気は今に伝えている。

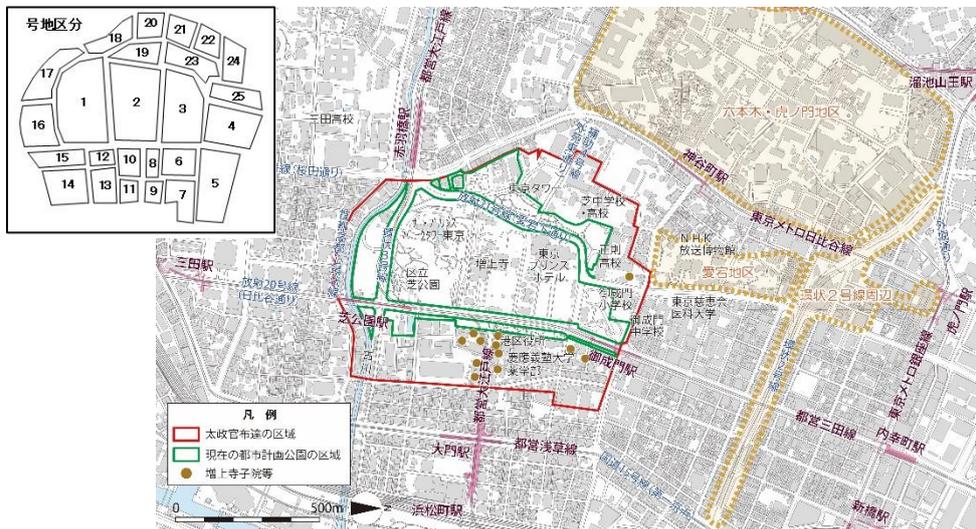
1957年（昭和32年）に愛宕山地区を含む都市計画芝公園が都市計画決定され、その後、1968年（昭和43年）に中学校等の区域を削除し、現在の都市計画公園区域となった。

都立芝公園では、4号地に戦後、児童館が設置されて子供の遊び場となり、1979年（昭和54年）に区立みなと図書館が開館した。2010年（平成22年）からは防災整備の一環として防災トイレ、パーゴラなどが設置され、2015年（平成27年）に、遊具施設等の拡充が行なわれている。16号地は、野球場2面、テニスコート4面を備えたスポーツゾーンとなっている。昭和から平成にかけて順次用地買収を行って整備を進め、1990年代には約2000㎡を追加開園するなどして、現在の開園面積約122,500㎡となっている。

18号地において、2005年（平成17年）に都市計画法に基づく建築許可により民間の飲食店が開業している。

周辺では、1958年（昭和33年）には、紅葉館の跡地に東京タワーが開業した。東京オリンピックを契機として、1964年（昭和39年）に東京メトロ日比谷線神谷町駅、都営地下鉄浅草線大門駅、東京モノレール浜松町駅が開業、1973年（昭和48年）都営地下鉄三田線御成門駅・芝公園駅が開業した。

また、1980年代以降、隣接する六本木・虎ノ門地区や愛宕山などにおいて、都市開発が進められ、2000年（平成12年）には都営地下鉄大江戸線大門駅が開業し、さらに、環状第2号線の整備等を契機に、都市開発が活発に進められている。



現代の芝公園周辺の増上寺子院等、都市開発の状況

出典：国土地理院の電子地形図（基盤地図情報）に太政官布達の区域等を追記して掲載



三田方面から東京タワーを望む（桜田通り）



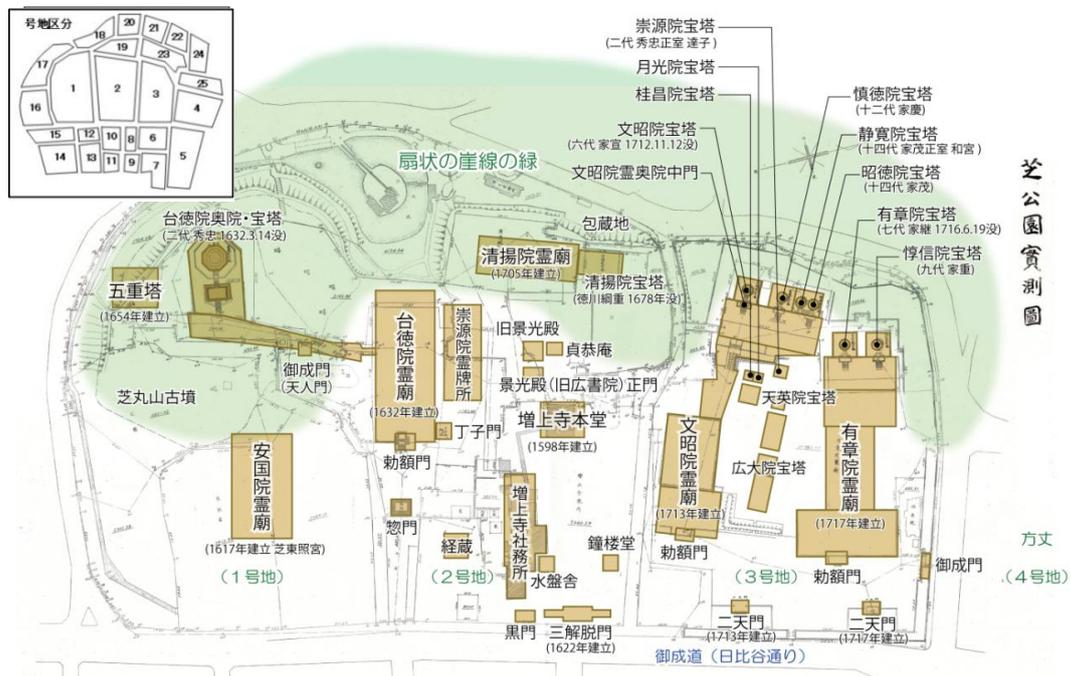
今もなお残る増上寺山門付近の支院の練塀

3)狭域で見た芝公園

①江戸時代

1号地から3号地までは、扇状の崖線の緑を背景に、増上寺本堂と徳川霊廟群が鎮座し、中心部から奥へ向かって色濃くなる緑が幽玄な聖地を包み込んでいた。また、建築物の周囲には、景趣を形成する樹林が配され独特の空間を形成していた。さらに、門から霊廟に向かう参道の軸線が統一され、建物も同一の方向を向いていたが、霊廟へ参拝する将軍の休憩所となる方丈（4号地）は、異なる軸線に建物が並んでいた。

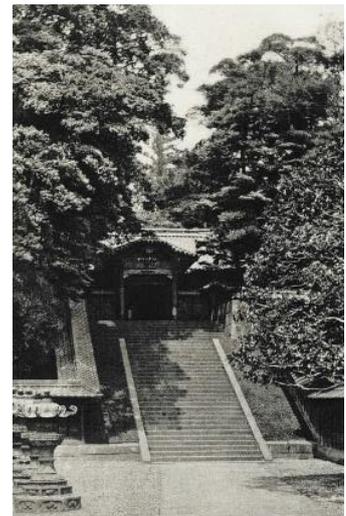
1号地の丸山は、東京湾岸に唯一残る大型の前方後円墳で、山深く南側の斜面には五重塔が建立され、江戸の景勝地となっており、また、御成道（日比谷通り）沿いは、三解脱門や旧台徳院霊廟惣門、有章院霊廟二天門、練塀、松林などが南北の景観を形成していた。さらに、門前や本堂付近は、祭りの際には多くの庶民でにぎわっていた。



文昭院霊廟 霊牌所勅額門前 石灯籠群



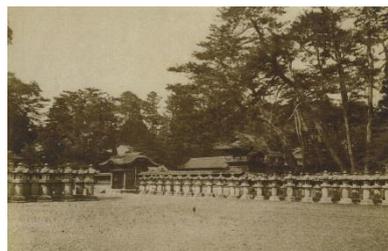
有章院霊廟 霊牌所勅額門



文昭院殿 奥之院唐門



有章院霊廟 霊牌所勅額門



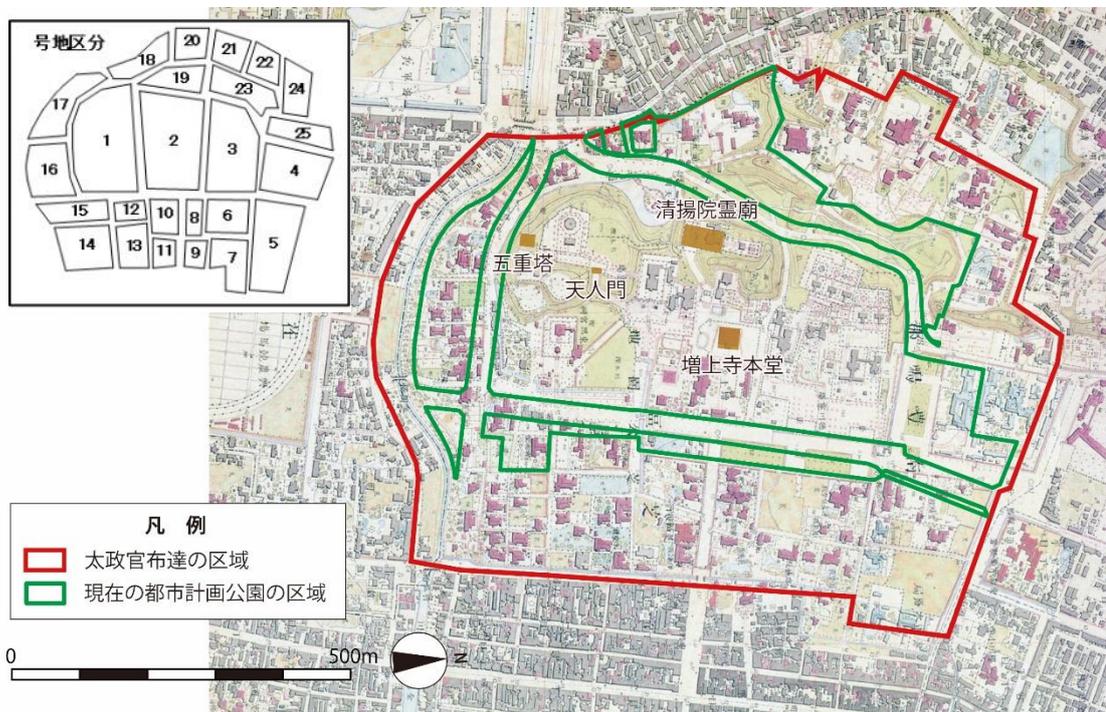
文昭院霊廟 霊牌所勅額門前 石灯籠群

出典：公益財団法人東京都公園協会資料データベース「芝公園実測図1/600」から作成(中段)、増上寺所蔵(下段右)都立図書館、港区立郷土歴史館所蔵「幕末・明治期古写真集」(下段左上、下段中央上、下段左下、下段中央下)。

②明治時代

1883年（明治16年）頃には霊廟が一般公開され、外国人も来訪するようになり、霊廟は祭祀空間から、文化財としての鑑賞対象物へと変化した。1890年（明治23年）には、老朽化した清揚院霊廟が解体され、また、旧台徳院霊廟の天人門と五重塔が、徳川家の申入れにより東京府に上地され、翌年に修復が完了した。1873年（明治6年）の開園以降、1号地から16号地にかけて、西洋料理店、甘味処、湯屋、植木商等が開設されにぎわいを見せた。江戸時代に「梅屋敷銀世界」と言われていた梅林を、1908～1909年（明治41～42年）頃に1号地へ移植したことで、花見の名所となった。

増上寺は、1873年（明治6年）、1909年（明治42年）の二度にわたって大火に遭い、本堂他貴重な堂宇が消失した。1921年（大正10年）には本堂が再建され、その他の堂宇の整備・復興も進められた。



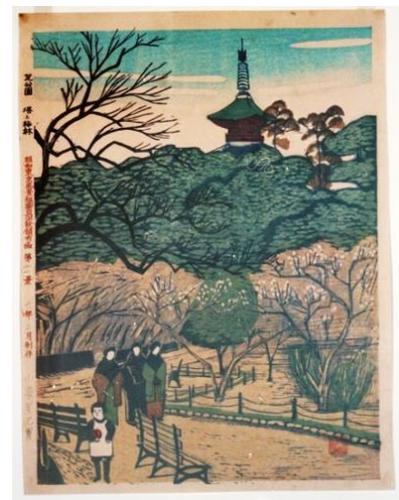
有章院殿御霊屋の図



東京開化三十六景
芝増上寺内円山ノ景



蓮池弁財天附近の図



昭和東京風景版画百図絵頒布画
第十一景 芝公園 塔と梅林

出典：国土地理院の古地図コレクション「東京府武蔵国芝区芝公園地近傍」に太政官布達区域等を追記して掲載（中段）、都立図書館所蔵「新撰東京名所図会」（下段左上、下段左下）、東京都江戸東京博物館所蔵（下段中央、下段右）

③現代

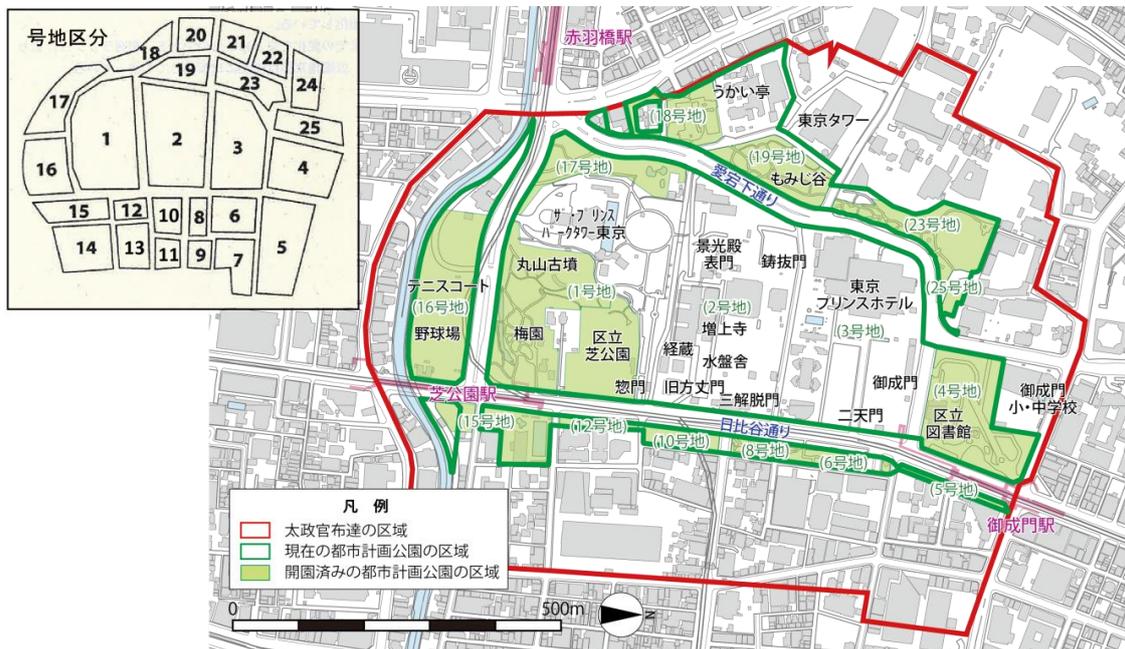
1945年（昭和20年）東京大空襲の際に、増上寺本堂や霊廟、五重塔などが焼失した。1974年（昭和49年）には本堂が再建され、焼失を免れた重要文化財の三解脱門や旧台徳院霊廟惣門、有章院霊廟二天門など江戸期の大規模な建造物が、往時の姿を現在に伝えている。

芝公園には、現在も丸山やもみじ谷など、武蔵野崖線の豊かな緑が現存しており、増上寺や霊廟などと一体となって、特徴的な空間を形成している。また、1号地には、都内最大級の前方後円墳（丸山古墳）が現存しており、古墳の上や麓には、ソメイヨシノやヤマザクラなど200本余りの桜があり、花見客でにぎわうほか、古墳の麓にある梅林が、往時の梅園の雰囲気を今に伝えている。江戸時代には、御成道（日比谷通り）と平行して松原があったが、現在はクスノキが連続する緑地帯となっている。

3号地の霊廟跡地において、1964年（昭和39年）東京オリンピックの開催に向け、旧都市計画法に基づく建築許可により民間のホテルが建設された。また、1号地においても2005年（平成17年）都市計画法に基づく事業認可により、民間のホテルが建設されている。

2002年（平成14年）には、1号地に区立芝公園が開園した。

3号地のホテル及び18号地の飲食店については、民間の敷地に建築許可により建設されており、増上寺等とともに未供用区域となっている。1号地の民間のホテルは都市計画事業として認可されたものであり、供用区域となっている。



出典：国土地理院の電子地形図（基盤地図情報）に太政官布達の区域を追記して掲載



世界貿易センタービルからの眺望

参 考:増上寺・芝公園等年表

年代（時代）	主な出来事
1393年（明徳4）	増上寺を創建 武蔵国豊島郡（現在の千代田区平河町付近）に創建
1590年（天正18）	徳川家康が江戸に入り、増上寺が徳川家の菩提寺となる。
1598年（慶長3）	増上寺が現在地の芝に移転
1603年（慶長8）	江戸幕府の開府
1632～1716年 （寛永9～享保元）	1632年 台徳院霊廟（二代将軍秀忠）を建立 1713年 文昭院霊廟（六代将軍家宣）を建立 1716年 有章院霊廟（七代将軍家継）を建立
1868年（明治元）	戊辰戦争 寺社地の一部が軍に収容され、開拓使の出張所や仮学校、寄宿舍などへ転用
1873年（明治6）	太政官布達 増上寺境内域（芝公園）が、日本初の公園に指定 放火により増上寺本堂焼失
1878年（明治11）	外苑東通りの開通
1879年（明治12）	芝園橋の開通（日比谷通り）
1881年（明治14）	20号地に、紅葉館・能楽堂を整備
1883年（明治16）	徳川霊廟の一般公開開始
1888年（明治21）	「市区改正設計（旧）※」により日比谷通りなどが一等道路に指定
1890年（明治23）	徳川家の申し入れにより五重塔が東京府により修復・再生
1892年（明治25）	芝園橋から東照宮前までの道路開通が決定（日比谷通り）
1901年（明治34）	日比谷通りの整備のため御成門を移築
1909年（明治42）	増上寺本堂再焼失 浜松町駅の開業（東海道本線品川～烏森間開通） 公園区画（1号地から25号地まで）が公刊地図等に明記され定着
1921年（大正10）	増上寺本堂の再建
1923年（大正12）	関東大震災 雲晴院と天光院が焼失
1930年（昭和5）	霊廟全体が国宝に指定
1945年（昭和20）	東京大空襲 本堂・霊廟・五重塔が焼失
1946年（昭和21）	戦災復興院による戦災復興都市計画により公園拡張（給水所等） その後、同区域を含む東京タワー一帯を計画から削除（昭和28）
1958年（昭和33）	20号地（紅葉館跡地）に、東京タワー建設
1964年（昭和39）	3号地（霊廟跡地）に、ホテル建設（旧都市計画法施行令11条の2許可）
1973年（昭和48）	都営三田線御成門駅・芝公園駅開業
1974年（昭和49）	増上寺本堂の再建
2005年（平成17）	1号地に、タワー型ホテル建設（都市計画法特許事業） 18号地に、民間の飲食店開業（都市計画法53条許可）

※1903年（明治36年）に新計画が制定